

# 令和6年度病害虫発生予察注意報第1号

令和6年5月21日  
岐阜県

作物名 果樹（ナシ、モモ、カキ、リンゴ、ミカン等）

病害虫名 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシ越冬世代成虫）

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 5月下旬～7月下旬

3 発生程度 多い

## 4 予報の根拠

- (1) チャバネアオカメムシ越冬量調査（令和6年2月）では、調査した11地点の平均越冬成虫量は3.0頭（平成1.1頭）で、平成の約3倍と多かった（表）。
- (2) 岐阜市に設置した予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数は4月第5半旬以降増加し、4月第1半旬から5月第3半旬の誘殺数は33頭（平成2.7頭）と平成より多く推移している（図1）。
- (3) 美濃加茂市に設置した予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数は4月第5半旬以降増加し、4月第1半旬から5月第3半旬の誘殺数は100頭（平成17.0頭）と多く推移している（図2）。また、同様にフェロモントラップ誘殺数も、4月第1半旬から5月第3半旬の誘殺数は120頭（平成29.9頭）と多く推移している（図3）。
- (4) 5月上旬におけるカメムシ類によるサクラ果実の吸汁果率は、岐阜市で76.9%と果樹園への飛来の目安となる75%を超えている。
- (5) 一部のカキ及びナシ園では、すでに越冬世代成虫の飛来が確認されており、気温の上昇とともに、飛来数が増える可能性が高い。

## 5 防除上の注意事項

- (1) 果樹カメムシ類の被害の発生には地域差や園地差があるので、園内へ飛来を確認したら防除を実施する。なお、薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
- (2) 果樹カメムシ類の飛来は夜温及び湿度が高く、風の弱い日に多くなるので注意する。
- (3) 防除に当たっては、周辺環境、気象条件等に注意し、薬剤の飛散防止に努める。
- (4) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報（<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム）を参照し、適正に使用する。

表 チャバネアオカメムシ成虫越冬量調査

(調査時期 令和6年2月実施)

調査場所		調査年度							
		R5	平年	R4	R3	R2	R元	H30	H29
岐阜市	東秋沢	0	1.6	0	0	0	6	0	0
	彦坂川南	0	0.8	0	1	0	1	0	0
海津市	南濃町奥条	0	1.5	0	0	0	6	0	0
大野町	牛洞	0	0.5	1	0	0	1	0	1
本巣市	法林寺	1	0.8	0	0	0	2	0	0
美濃市	曾代	2	1.8	0.5	0	1	5	3	1
	美濃加茂市 山之上西洞	2	1.8	0.9	1.3	0	7	0.5	0
	山之上中之番	3	1.4	0	0	0	8	1	0
中津川市	落合	0	0.2	0.3	0	0	0	0	1
	阿木	6	0.8	0.8	2	0.5	0	2	0
恵那市	武並	19	—	0	1	0	3	3	—
平均		3.0	1.1	0.3	0.5	0.1	3.5	0.9	0.3

調査地点1カ所あたり50Lの落葉を採取し、ハンドソーディングにより調査

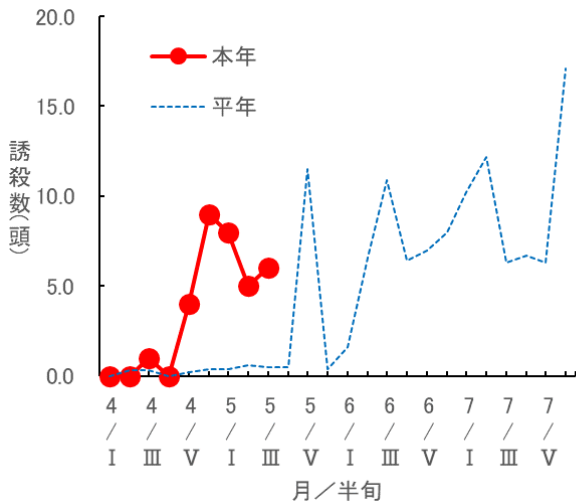


図1 予察灯でのツヤアオカメムシ誘殺数 (岐阜市則松)

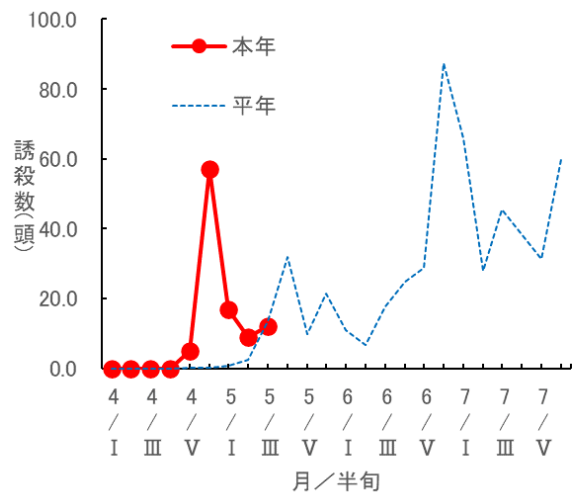


図2 予察灯でのチャバネアオカメムシ誘殺数 (美濃加茂市山之上町)

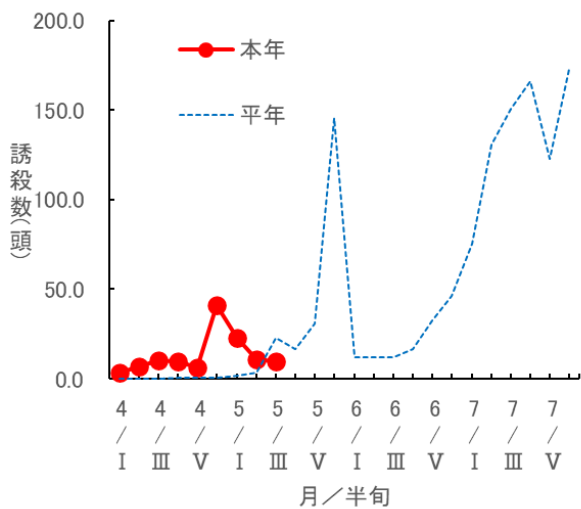


図3 フェロモントラップでのチャバネアオカメムシ誘殺数 (美濃加茂市山之上町)